

歓 迎 の 辞

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。

また、御両親様をはじめとする御関係者の皆様にも、本日ここに新入生の皆さんがめでたく御入学を迎えるにあたり多大なる御支援を賜りましたことに対し御礼の意を込めてお祝いを申し上げます。

僭越ながら、ここで、日本大学商学部の教員を代表して、ひとこと臚（はなむけ）の言葉を贈らせていただきたいと思えます。大学院生の皆さんも、初心に戻って聞いてください。

さて、新入生の皆さん、「トランプ」を知っていますか？

こう尋ねると、ある人は、おそらくポーカーなどをするための一組のカードをイメージするだろうと思えます。また、ある人は、アメリカ大統領選の共和党候補者のトランプ氏を思い浮かべるかもしれません。

皆さんはどう答えるのでしょうか？ 尋ねられたのだから「知っている」と答えるのでしょうか？ おそらく、皆さんの誰もが、両方とも知っていると思えます。もしそうであるなら、正しい反応は、まず質問を返すことです。「どちらのことを聞いているのか？」と。

そこに、皆さんと私のコミュニケーションが始まります。

皆さんは、今日、大学という新たな世界に足を踏み入れました。そこは、これまでの学校と違って「決まった答え」のない問題にチャレンジすることを学ぶ場です。実は、皆さんを取り巻く世界には、私たちが誰も知らない問いが溢れています。

大学では、その答えを探す方法を見つけてください。そのためのヒントは、人と力を合わせて考えるということです。そこに、コミュニケーションの必要性が生じてきます。

今から約 100 年前のヨーロッパ、現在と似て、社会になんとも言い様のない不安感が漂い始めた頃のこと。カフカ (F. Kafka) という作家が「審判」という小

説を書き残しました。優れた文学であるばかりでなく、哲学的な内容を秘めた大作です。映画にもなりました。その中に衝撃的な場面があります。主人公は、Kといます。Kは、厳かな門の前に佇んで、中に入るチャンスを、今か今かとうかがっています。扉は開かれているのですが、門番がいて中に入れそうにありません。しかも、門の先には更に多くの門があり、全ての門に屈強な門番が一人ずつ張り付いているようなのです。一体、どうしたら入れるのでしょうか？

Kは、じっと待ち続けます。しかし、いくら待っても、Kのほかにその門の中に入ろうとする者は一人として現れませんでした。長い年月が過ぎて、Kは、とうとう門番に尋ねます。なぜ、誰もその中に入ろうとしないのか、と。すると、門番はいとも簡単に答えます。「それは、お前のためだけに開かれている門だからだ！」そして、門は閉ざされてしまうのです。

この話の寓意は、簡単な問いかけが、皆さんの道を拓くのだということです。「はじめに言葉ありき」と言えるかもしれません。それによって、コミュニケーションが生まれ、自分を取り囲んでいる世界とそこにいる仲間たちの存在がしだいに見えてきます。今は何も見えなくとも、今日のこの瞬間から勇気をもって皆さんの目の前にある扉を、皆さん自身の決断によって押し開くように、チャレンジしてください。私たち教員は、そして職員も、さらには皆さんの先輩たちが、皆さんのために、喜んで協力するでしょう。

自ら決意して実行することを「コミットメント」(commitment)といますが、今日の開講式を機に、ぜひそのスタートを切ってください。

皆さんの大いなるチャレンジとなるコミットメントを期待して、私たちの歓迎の辞といたします。

平成28年4月1日

日本大学商学部教員代表

佐々木 實 雄